

2018年12月

裾野市のこれからのまちづくりと課題

ーシビックプライド醸成の視点から考えるー

経営学部経営学科 梅村ゼミナール

B5R11124 西川高矢

【卒業論文概要】

近年、都市部への人口流出や少子高齢化により地方の人口減少が進んでいる。私の故郷である静岡県裾野市でも人口減少問題が起こっており、2010年まで増加傾向にあり54,546人まで増加していた人口が2040年には50,000人を下回るという予測がなされている。この人口減少により商業施設の衰退などの地域経済への影響が起こり将来的な市の存続が危ぶまれる。しかしこういった状況であるからこそ裾野市が持つ強みを活かし人口減少問題に対し向き合うことができる。そのために私たち住民が住んでいる地域と向き合い、地域を知り、問題に取り組んでいくことが必要である。

裾野市は静岡県東部に位置しており、子育て支援に力をいれた政策を行ってきた。合計特殊出生率1.82（平成20～平成24年）と比較的高い水準を持つ一方、現在人口減少の局面に立たされている。これは高い合計特殊出生率とは裏腹に転入者に対し転出者数が多いためである。つまり人口の自然増加<転出超過による人口減少 となっているということである。こういった状況での人口減少対策は子育てをしやすい環境づくり等人工増加のための対策ではなく、転出者を抑えることによる人口減少抑制のための対策が最も効果的である。住民が住んでいる地域を知り、その地域に愛着を持ち、その地域を自分が作っているという誇りを持つことができればその地域を離れる住民は少なくなるはずである。それがシビックプライドである。住民に上手く地域への愛着、誇りを持たせることができれば転出超過による人口減少は切り抜けられる。転出超過による人口減少が大きい裾野市ではシビックプライド醸成は避けることができない問題でありしっかり向き合っ取り組む必要がある。本稿ではバルセロナ（スペイン）と今治市（愛媛県）の2つの都市のシビックプライド醸成事例をもとに、裾野市の現在の状況や行っている取り組みを踏まえ比較分析をしながら裾野市のこれからのまちづくりに必要な取り組みを考察する。